

脱炭素事業の紹介

近年、異常な高温や豪雨・洪水などの気象災害が増え、現代を生活している私たちや将来世代の生活が脅かされています。これらの災害の多くが、二酸化炭素やメタンなどの「温室効果ガス」の排出によるものと考えられています。国や県、企業などでは、排出を抑制し、影響を緩和するための脱炭素の取り組みを進めています。

大崎町でも令和4年度に「ゼロカーボン推進宣言」を発表し、脱炭素を通じて地域を豊かにするための取り組みをおこなってきました。ここでは令和6年度の取り組み事例を紹介します。

● バイオ炭

出荷できなかった野菜類を畑に残置し肥料として鋤きこむことは多いですが、ここからも温室効果ガスが発生します。実はこれらを炭に変えて（バイオ炭といいます）畑に散布することで、ガスの発生を抑えるだけでなく水はけや保水性、通気性の改善、微生物のすみかとなって土壌改良の効果があることがわかってきています。



今年度は、販売されている高機能のバイオ炭をさつまいも畑・大根畑に投入し、作物の生育状況を確認する実験をおこないました。さつまいもの生育状況は良好で、慣行区より多くの収穫があったり、品質が向上することが確認できました。

また、出荷できなかった野菜（さつまいも等）、草木ゴミ、海岸流木など、利用されておらず温室効果ガスの排出源になっているものを炭化する実験をおこないました。こちらは実験段階ですが、試行錯誤し炭化に成功しています。

● 水稻中干し期間の延長

水田からは温室効果ガスの一つであるメタンが発生しますが、中干しの期間を延長することでその発生量を抑えることができます。今年度は、中干し期間を1週間延長することで稲の品質や収量に変化がないかを立小野地区で実験しました。結果として、同一の品種（ひのひかり）で通常通りの栽培をおこなった近隣の畑と比較して収量・品質ともに大差なく収穫できることを確認しました。

